

第 2 回 SSH 国際交流講演会 「中国語講座」

令和 7 年 6 月 25 日 (水) 16:00～17:30 に、本校 5 階にある多目的教室 CD において第 2 回 SSH 国際交流講演会が実施され、生徒 117 名が参加しました。今年度 2 回目となる講演会の講師は、大学院時代に中国思想を研究し、中国の歴史・文化に深い造詣を持つ、仙台一高 教諭山崎順平先生でした。本校は SSH 指定校として国際交流事業を熱心に行っており、台湾をはじめアジアの国々と幅広く交流を続けてきました。そのような流れもあり、山崎先生には国際交流講演会として中国語講座を行って頂きました。

今回教えて頂いた中国語は、中華人民共和国が建国後に制定したローマ字表記である「拼音字母」をもちいた「普通話」でした。ただ本校が台湾の高校と交流しているので漢字表記は台湾で用いられる「繁体字」を用いたテキストにいただきました。語彙に一部違いがあるものの、文法は台湾で使用されている「國語」と同じなのだそうです。講演では「普通話」は、北京に都のあった清朝時代の流れを受けて、北京周辺の「方言」であった「北京語」の発音や語彙を基礎に制定されたという、歴史的背景を教えていただきました。そしてその後、簡単なあいさつを中国語で発音する練習を行いました。中国語は同じ発音でも、四音というアクセントやイントネーションの違いにより異なる意味を表す特徴を持っており、山崎先生のとてもわかりやすい講義により、受講した生徒は楽しそうに中国語の音声を学んでいました。また、「方言」の影響を受けて、「普通話」は必ずしも全国的に統一された発音がされていないことも教えていただき、生徒は「方言」の違いなどに興味を示し、講演後には多くの人が質問をしていました。



～参加者の感想～

中国語は音と息が重要だから、音楽や歌の歴史、文化が発展しているのではないかと思った。
また、それらを調べたら面白い発見や気付きがありそうだったと思った。講演を通して、中国語はとても繊細な言語なのだと感じた。(1年)

以前から中国語に興味があつてこの講座を受けてみたが、様々なことを知れて勉強になった。中国語は日本語よりも音程が幅広く、音の高さを掴むのが難しかったが、新鮮で楽しかった。(1年)

中国語の発音は英語よりも複雑で上がり下がりの意識が大事にされていることがわかった。特に数字の発音は上がり下がりが激しく難しかった。
漢字だけでたくさん数があるので、どれだけの発音の種類があるのか疑問に思った。日本語とは全く違う言語で、学ぶのが楽しかった。(2年)

使用されている地域が広いことやその歴史的背景から、日本語で言う「方言」よりも更に複雑な使用状況であることが分かった。ヨーロッパ系の言語が似ているように東アジアも交流の中で似ているかも知れないと思ったが、日本語とも韓国語とも違っていった。(3年)

中国語の発音をしているときに、日本語の発音の中にある微妙な違いに気付かされた。外国語を学ぶことによって、自分の国の言葉と比較させて、自国の言語のことについても学ぶことができるのだと言語学の面白さを感じることができた。(3年)

《編集後記》

SRTimes をまとめる中で、多くの人が中国語に興味を持っており、講演を通してより知りたくなつたと感じていたことが分かりました。難しい発音に苦戦しながらも、楽しく中国語を学ぶことができました。今回の講演を通して、異文化を知ることの面白さや楽しさを実感できたのではないかと思います。

